

I スクール・ミッションと3つのスクール・ポリシー

＜スクール・ミッション＞

体験的なキャリア教育を通して幅広い教養と豊かな情操を養い、グローバル化が進展する社会の中で自ら課題を設定して解決に導く力を伸ばし、何事にも高い志をもってチャレンジする精神を育むとともに、日本の文化や歴史を理解し、他者を尊重して国際社会でたくましく生き抜く人材を育成します。

＜グラデュエーション・ポリシー＞

心身ともに健康でくじけぬ心とたくましい体を育み、高い知性と豊かな情操を身に付け、自律・互敬の精神をもって他者と協働して社会をたくましく生き抜く力を磨きます。また、探究心と知的好奇心にあふれ、自ら考え、学びに向かう力を活かして、グローバルかつ多角的、多面的に物事を捉え、自ら課題を設定して解決し、未来を自ら切り拓くことができる人材を育成します。

＜カリキュラム・ポリシー＞

2年次までは、一人一人が、自らの将来を展望し、青年期にふさわしい広く深い知識に裏付けられた教養を主体的に身に付けて人生を豊かなものとするために、学問分野を限定せず、すべての教科をバランスよく学びます。3年次では、多様化する大学入試への対応と、個々の進路希望の具現化を目指して数多くの選択科目から、個々の進路希望に応じた教科・科目を選択して、集中的に効率よく学びます。

＜アドミッション・ポリシー＞

生徒一人一人が確かな学力と心身ともに健康な体力を身に付けるために、教科学習だけでなく、学校行事や部活動も盛んに行われています。そのため、本校を志望する生徒には、次の条件を満たし、さらに発展させる推進力と熱意を求めます。

- ① 学習意欲に富み、十分な学習成果を上げている生徒
- ② 将来の進学に対する目的意識が明確で、向上心をもって自ら進路を切り開こうとする生徒
- ③ 生徒会活動や部活動、学校行事等にも積極的に参加・貢献し、入学後もこれらの活動に参加・貢献しようとする生徒

II 中期的目標と方策

＜目 標＞

- 1 知ることの喜びや探究する方法を学び、知的好奇心を弾みに主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、一人1台端末の授業での活用を推進し深い学びの実現を目指す。
- 2 組織的な進路指導を行いより高い目標の実現を目指すとともに、国内のみならず国外も視野に入れた進学実績を向上させる。
- 3 特別活動への取組を通して豊かな人間性や資質を育み、自主性や他者への貢献の心を涵養する。
- 4 凡事徹底を実践し、社会人として通用する規範意識の確立を図るとともに、安全・安心な学校生活を送れる環境を整備する。
- 5 心身共に健康な生活を送れるよう健康保持や体づくりを進めるとともに、相談できる体制を充実する。
- 6 東京都から指定された「Global Education Network 20」（以下GE-NET20）事業を推進しグローバル人材育成教育を進め、多様性を尊重し共生社会の実現に向けて貢献できる人材の育成に努める。
- 7 教育内容や教育活動の成果などを発信し、広く都民に信頼される学校づくりを進める。
- 8 全教職員が課題を共有し、「チームムサキタ」で丸となり協力して課題解決に取り組むとともに、各分掌における効率的な校務運営に取り組む。

＜方 策＞

- 1 探究的な学びを推進し考え抜く力や知識や技能を活用する力を育成し、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を養うとともに、一人1台端末の授業での活用により生徒一人一人に応じた指導を行う。

- 2 進路指導部主導の計画的、継続的、組織的な進路指導を教職員全員で実施し目標の早期設定や高い志の維持等を図るとともに、データ分析、定点観測及び国内外の大学進学情報を提供し生徒の進路希望実現に取り組む。
- 3 部活動や学校行事において、努力することの大切さや達成感を体感させ、仲間への連帯感や学校への帰属意識を育成する。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として通用するマナーを身に付けさせるとともに、学習環境等の整美に努める。
- 5 保健指導等を通して心身の健康管理の意識を高めるとともに、生徒・保護者の相談体制を整える。
- 6 GE-NET20 事業の推進により「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。
- 7 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
- 8 ICTを活用するなどして、主幹会議、企画調整会議を核に学年会、分掌部会、経営企画室との情報の確実な共有により「チームムサキタ」で教職員が一丸となり組織的な校務運営に努める。

＜成果と課題＞

- 1 探究的な学び、双方向の授業等を推進することで、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を育んだ。授業や特別活動において一人1台端末の活用を進めている。今後はさらに個別最適化の学びに向けての有効活用を検討、実践する。
- 2 進路指導部が中心となり計画的、継続的、組織的な進路指導を実践している。早期の目標設定や高い志の維持を働きかけた結果、難関国立大学、難関私立大学の合格者が増加している。模試分析会の定期的な実施等、教員主体の学力分析を実施し、生徒の進路希望実現を支援した。過去のデータを活用しながら支援体制をさらに充実させていくことが課題である。
- 3 体育祭、文化祭、合唱祭を全校体制で実施でき、生徒が達成感を感じられる活動を実践することができた。引き続き、生徒の自主的、主体的な活動を推進していく。
- 4 生徒会執行部等を中心に生徒の自治活動を進め、学習環境等の整美に努めるとともに、生徒一人一人のルール・マナーを遵守する意識を高めることができた。一部公共の場所の使用について地域住民から指摘を受ける場面があり、今後さらに規範意識の醸成に努める必要がある。
- 5 スクールカウンセラーを効果的に活用し、生徒や保護者の心身の健康管理体制を整えることができた（生徒107人・保護者58人）。生徒支援について教員対象の研修会を実施した。今後さらに生徒が自らの健康について考える機会を充実させていく必要がある。
- 6 「オンライン英会話 やTGG、GTEC等の英語教育」や「総合的な探究の時間と関連付けた取組、論文の作成」、「高大連携や外部講師による講演会」などGE-NET20に関連する事業を充実させ、国際理解教育を推進した。今後はその取組をより組織的、計画的に実施していくことが課題である。
- 7 学校見学会や学校説明会、塾対象授業公開、ホームページの定期的な更新、中学校訪問等、広報活動を充実させ、募集対策を進めた（ホームページの更新回数2341回）。今後さらに学校の魅力を分かりやすく発信していくことが課題である。
- 8 企画調整会議を適切に運用し「チームムサキタ」として教職員が一丸となり組織的な校務運営を行うことができた。今後はさらにICTを活用して効率的な学校運営に取り組んでいく。

Ⅲ 今年度の目標と方策

1 学習指導

＜目 標＞

生徒の高い学力の定着と探究的な学びの充実

＜方 策＞

- (1) 授業での学習のねらいの明示、知識・技能を活用して探究する場面の設定、話し合いや発表活動により、生徒の主体的な学びを実現するとともに、オンライン教育を活用し生徒の学びを保証する。

- (2) 統合型学習支援システム等のデジタル技術を活用した授業改善に取り組み、生徒の学習状況に応じたきめ細やかな学習指導を行い、難関大学に果敢にチャレンジできる学力を身に付けさせる。
- (3) 探究支援部を中心とし組織的に「総合的な探究の時間」の充実を図る。東京農工大学、東京学芸大学、東京都立大学等との高大連携により、生徒の探究的な学びを一層充実させデータ分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力等の向上を図る。
- (4) 東京都の「理数研究校」として、生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、各種科学コンテスト等への参加により生徒の理数に対する資質・能力の一層の伸長を図る。
- (5) 年に2回以上の教員相互の授業見学や「生徒による授業評価」の活用により、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図るとともに、授業改善に向けた校内研修を実施する。
- (6) 考査・実力テスト、外部模試や授業評価を基に教科としての課題を明確にし、補習・講習を組織的に実施する。
- (7) 大学入試改革を見据えた研究・開発を行う。
- (8) 生徒の知的好奇心を醸成するために、図書の貸し出し数、図書館利用率を高め、読書活動を推進する。
- (9) 自習室や廊下の学習機の適切な活用を推進し、自学自習を定着させる。

<成果と課題>

- (1) 学習のねらいの明示、探究する場面の設定、話し合いや発表活動を多く取り入れる授業展開等、生徒の主体的な学びを実践できている。必要に応じてオンライン授業を行い、学びの場を保証した。今後さらに教員相互の研修を進め、生徒の主体的な学びを支援する。
- (2) 統合型学習支援システムを活用した教育を推進している。リアテンドットの利用率が向上した。今後さらに生徒の高い進路希望実現に向け、データを有効活用した学習支援体制を整えていく。
- (3) 探究支援部を中心に「総合的な探究の時間」を充実させた。東京農工大学、東京学芸大学等との高大連携により、生徒の探究的な学びに深まりがあった。今後さらにデータ分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力等を高める取り組みを推進する。
- (4) 科学の甲子園東京都大会（筆記競技・実技競技）に出場し、総合順位21位であった。物理オリンピックに75名が参加した。コンテスト参加にあたり、放課後の講習等で生徒の活動を支援した。今後さらに、数学オリンピックの出場など積極的な働き掛けを行うなど、生徒の理数に関する興味、関心を高める取組を学校全体で推進する。
- (5) 年に2回以上の教員相互の授業見学や生徒による授業評価を活用することで、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図った。今後さらに校内研修を充実させ、授業改善に向けた取組を推進していく。
- (6) 教員主体の模試分析会等を通して生徒の課題を把握し、生徒の課題に応じた補習、補講を組織的に実践した。朝学習の充実や校内予備校の活用などを通して生徒の学力向上を図った。今後さらに生徒のニーズに応じた学習支援を充実させていく。
- (7) 共通テストトライアル（3年生）、共通テストチャレンジ（1、2年生）、予備校による教科「情報」の共通テスト対策等を実施して生徒の進路希望実現を支援した。今後さらに大学入試改革を見据えた生徒支援を、進路指導部を中心に組織的に実施していく。
- (8) 司書教諭、学校図書館専門員が連携して読書活動を推進している。今後も学校図書館専門員との連携を密にして、より一層の読書の奨励と情報発信に努めていく。
- (9) 進路ガイダンスなどにより自習室、自習機の活用を呼び掛け、生徒の主体的な学習を支援した。平日は午後7時まで、土日は午後5時まで開放している。今後も先輩から後輩へ学習に向かう姿勢が引き継がれるよう、支援を充実させていく。

2 進路指導

<目 標>

「進学指導推進校」として、高い志をもたせる指導

<方 策>

- (1) 進路指導部が作成した3年間の進路指導計画・面談計画、キャリアプランに基づく組織的、系統的な指導を進路指導部と学年、教科の密な連携のもと推進し、生徒の高い志を育成する。
- (2) 6教科8科目以上の共通テスト受験率を高め、生徒が第一志望にチャレンジできるよう3年間を見据えた進路指導体制を確立する。
- (3) 年3回以上の個別面談、うち1回は三者面談の実施により「進路を自ら考え、選択できる力」を育成するとともに、保護者と連携し生徒一人一人に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- (4) 迅速なデータ検証を基にした模試分析会・ケース会議を早期に実施し文系・理系ともに進路先を開拓するとともに、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させる。
- (5) 進路講演会、訪問授業、大学訪問等をタイムリーに実施し、進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
- (6) 教科毎に、組織的な長期休業中の講習を実施し、生徒の軸足を学校に置いた指導を行う。また、東京都による民間事業者を活用した学力向上支援を受け、予備校と連携した講習も行う。
- (7) スプリングセミナー、オータムセミナー等での体験学習を通して視野を広げ、夢に向かって自分のやるべきことを考えさせる。

<成果と課題>

- (1) 3年間の進路指導計画・面談計画に基づく組織的、系統的な指導を実践している。模試分析会や合格速報会など教科や学年とタイムリーな情報共有、定期的な面談を通して、生徒の学習支援を充実させることができた。今後も連携を密にしながら支援体制を充実させていく。
- (2) 進路講演会や学年会、進路通信等による働き掛けで国公立大学の魅力を伝え、6教科8科目を最後までやり抜く意志を高めることができた。最後まで諦めさせない励ましの指導を実践することで6教科8科目の高い受験率を維持している。引き続き1、2年生からの計画的な指導を実践していく。
- (3) 年3回以上の個別面談、うち1回は三者面談を実施することで、生徒が自ら進路を考え、選択できる力を育成することができた。今後さらに保護者と連携し、支援を充実させていく。
- (4) データ検証を基にした模試分析会・ケース会議を実施することで、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させることができた。今後さらに経年変化等による分析結果を活用して、より指導内容を充実させていく。
- (5) 1年生へのスプリングセミナー、2年生へのオータムセミナー、進路講演会や大学訪問等をタイムリーに実施することで、生徒が自己の進路について考えを深める機会を設定することができた。今後も働きかけの機会を充実させ、生徒の高い進路意識を醸成していく。
- (6) 生徒の実態に即した長期休業中の講習を実施した。夏季講習(76講座、延べ約1900名参加)、冬季講習(10講座、延べ120名参加)、共テ後講習(21講座、延べ約140名参加)、春季講習(19講座、延べ437名参加)※講座数にはオンデマンド講座も含む。学校で実施する講習に加え、予備校と連携した講習を実施した。今後さらに充実した支援体制を構築していく。
- (7) 1年生のスプリングセミナーでは高校生活のスタートにあたり自学自習についての意識を高めさせることができた。2年生のオータムセミナーでは本校卒業生による講演や大学模擬授業などを通して3年生に向けて進路意識を高めることができた。今後さらに指導内容を充実させていく。

3 特別活動・部活動

<目 標>

学校行事、部活動の活性化により多様な人と共に、目標に向けて協力する力の育成

<方 策>

- (1) 学校行事への取組を通して、生徒の自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) 東京都の部活動ガイドランにある週に2日の休養日設定や活動時間等を遵守した部活動に係る活動方針を明確にし、学習活動と部活動の高度な両立を図る。
- (3) 体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底し、生徒の人権を尊重した部活

動を運営する。

- (4) 部活動指導員及び外部指導員を活用し、部活動指導の効率的なシステムを整備する。
- (5) 東京2020オリンピック・パラリンピック後のレガシーを継続実施する。

<成果と課題>

- (1) 体育祭、文化祭、合唱祭を全校体制で実施した。実行委員会を中心に、生徒の自主的、主体的な活動を推進することができた。今後さらに生徒主体の良い伝統を後輩へ継承させていく。
- (2) 学校評価アンケートにおいて、生徒達が積極的に部活動に取り組んでいる様子が伺える。一方で、部活動と学習のバランスがうまく取れていると回答している生徒の割合は7割に満たないため、活動時間の遵守等、活動方針を明確にし、学習との両立を推進していく必要がある。
- (3) 体罰や不適切な指導等のない活動を実践できている。今後も服務規律の徹底を図り、体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底していく。
- (4) 部活動顧問と部活動指導員が連携して充実した活動を実践できている。今後はより一層部活動指導員を活用し、教員の負担軽減に繋げていくことが課題である。
- (5) 多様性を受け入れる精神など、東京2020オリンピック・パラリンピックで得られたレガシーを、今後もあらゆる教育場面を通して継続的に実践していく。

4 生活指導

<目 標>

社会人としての規範意識の涵養

<方 策>

- (1) あらゆる機会を通じて「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを指導し、社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせる。
- (2) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。自転車運転時のヘルメット着用を推進する。
- (3) 良好な人間関係を築く基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、挨拶を自分から進んでできる生徒を育成する。
- (4) 学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校という校風を堅持する。

<成果と課題>

- (1) ホームルームや授業場面等の機会を通じて、全ての教員が「時を守り、場を清め、礼を正す」生活指導を実践している。一部、マナーやルールについて地域の方から意見をいただく機会があり、社会人としての規範意識の醸成について引き続き指導を充実させていく。
- (2) 機会を捉えて自転車の交通ルール・マナーについての指導を行っているが、事故が発生している。引き続きヘルメット着用について推進していく。
- (3) 教員が進んで挨拶を奨励するなど、生徒との良好な人間関係を構築できている。生徒の変化を適宜見とり、必要に応じて、担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が生徒を支援することでコミュニケーション能力の向上を図っている。引き続き支援を継続していく。
- (4) 教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化することで、学習等に落ち着いて取り組める環境を維持できている。毎年一定程度の遺失物が見られるため、引き続き私物の管理意識の向上を図っていく。

5 保健・相談活動

<目 標>

個々の生徒に配慮した教育活動

<方 策>

- (1) 体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。また、SOSの出し方に関する教育を推進し生徒の健全育成を図る。
- (2) スクールカウンセラーと連携した教育相談体制の充実及び、教育相談委員会の定期的な開催

- や校内研修により生徒情報を共有し、特別な支援を必要とする生徒への指導を充実させる。
- (3) 防災教育、避難訓練を地域と連携して計画的に実施し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、「自助」「共助」の実行力を養う。
 - (4) 薬物乱用防止やセーフティ教室等を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
 - (5) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努める。

<成果と課題>

- (1) 体罰根絶、いじめの未然防止について、研修等の機会を捉えながら継続的に確認している。今後も継続して重要項目として取り上げ、対応していく。
- (2) 教育相談委員会を活性化させ、支援の必要な生徒に対して、養護教諭やスクールカウンセラー、担任等が連携して対応にあたっている。スクールカウンセラーによる教員対象の校内研修を複数回実施した。今後、さらに支援体制を充実させていく。
- (3) 地域の防災担当者と連携した防災教育、避難訓練を実施することで、「自助」「共助」の実行力を養うことができた。次年度も引き続き充実した活動を実践していく。
- (4) 生徒の実態に応じて保健講話等を実施して、心身の健康について考える機会を設定した。引き続き、心身の健康の重要性について学年集会やホームルーム、授業での指導等、機会を捉えながら指導を重ね、健康教育を推進していく。
- (5) 保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努めることができた。今後もさらに指導内容を充実させていく。

6 グローバル人材育成教育

<目 標>

系統的・計画的なグローバル人材育成教育の推進

<方 策>

- (1) 探究支援部を中心に GE-NET20 事業を組織的に推進し、「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。オンライン英会話、語学研修、英語プレゼンテーションコンテスト、海外修学旅行、国際交流などを系統的に実施する。
- (2) A L T や J E T の活用及び外部検定試験の実施等により、英語 4 技能を一層伸長させ、グローバル人材育成教育を推進する。
- (3) 「子供のための伝統文化・芸能体験事業」を活用し、日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒を育成する。

<成果と課題>

- (1) 探究支援部を中心に GE-NET20 事業を組織的に推進し、「使える英語」、「豊かな国際感覚の醸成」、「日本人としての自覚と誇りの涵養」など、グローバル人材を育成できた。海外派遣研修（アメリカ）、オンライン英会話、イングリッシュキャンプ、G T E C（B 1 レベル以上 Advanced 2 学年 103 名、B 1 レベル以上 Basic 1 学年 71 名）、外部コンテストへの参加等を計画的に実施した。引き続き、グローバル人材育成に関わる事業を積極的に推進していく。
- (2) J E T プログラムを活用したイングリッシュ라운ジの活用や外部検定試験の実施等により、英語 4 技能を一層伸長させることができた。今後はさらに、向上した英語力を実践的に使用する場面を充実させていく。
- (3) 「子供のための伝統文化・芸能体験事業」を活用する等、日本の伝統文化に関する講演会を実施した。今後も自国や他国の文化について理解を深める機会の充実に図っていく。

7 募集・広報活動

<目 標>

積極的な情報発信

<方 策>

- (1) ホームページの迅速な更新等を通して日常の教育活動を適時に情報発信する。
- (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の特色をPRするとともに、存在感を高める。
- (3) 校内・校外における学校説明会、中学校・塾訪問、学校見学会、授業公開、個別相談会を実施する。募集・広報活動を全員体制で展開する。

<成果と課題>

- (1) 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図った（ホームページの更新回数 2341 回）。今後も更新の際には、各担当者が個人情報保護や人権への配慮等について十分留意する。
- (2) 吹奏楽部の地元小学校との交流演奏会や陸上競技部、男子バスケットボール部の体験入部等、交流の機会を充実させた。「だから都立校」の動画作成等、学校の魅力発信に向け計画的に取り組んだ。今後さらに広報活動を充実させていく。
- (3) 昨年度に比べて多くの中学校訪問や学習塾訪問(294 校)を実施した。今後さらに全校体制での広報活動を充実させていく。

8 学校経営・組織体制・経営企画室運営・施設設備管理

<目 標>

経営参画意識と協働意識の醸成及び適切な予算編成執行と教育環境の整備

<方 策>

- (1) 主幹会議、企画調整会議、職員会議等、各会議の運営改善及び業務の効率化を図る。
- (2) 主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭が職責を果たしスクール・ミッションの実現を図る。
- (3) 新教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目の到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、カリキュラムマネジメントを構築する。
- (4) 若手教職員の育成、中堅教員の指導力向上に向け、各職層のベテラン教員の経験を活かした職場内でのOJTや教員相互の授業見学等の学び合う機会を増やし、教職員の育成を図る。また、校内研修を計画的に行い、教職員の資質向上を図る。
- (5) 校内イントラ等を活用し、ペーパーレス化の推進を図り、迅速な情報共有を行う。
- (6) 組織的かつ効率的な業務の遂行及び統合型校務支援システム等のデジタル技術の活用により、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。各自の働き方に合わせて、教職員が少なくとも月に1回は定時退庁し在校等時間の縮減を図る。
- (7) 執務環境の整理整頓、クリーンデスクに取り組み、日頃から個人情報保護を徹底するとともに、ミスや事故にしない組織的な業務運営を行い、服務事故を未然に防止する。体罰・不適切な指導やハラスメント等の服務上の課題とは無縁な教育を行う。
- (8) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (9) 自律経営推進予算の執行状況について、四半期毎の資料を提示し適正管理するとともに、費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方を全教職員に定着させる。
- (10) 一般需用費のセンター執行を適切に行う。
- (11) 施設設備の安全管理及び修繕の早期発見、即時対応を推進する。

<成果と課題>

- (1) 主幹会議、企画調整会議、職員会議等、各会議の効率的な運営に努めた。引き続き、効率的な運営に向けて改善していく。
- (2) 主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭各職層の職責を明確にし、業務を遂行させることで、学校経営、組織マネジメントの改善に努めた。今後も引き続き組織的な運営を推進していく。
- (3) 新教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目が到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、実践することができた。今後は実施後の反省を踏まえより充実した内容に改善していく。
- (4) 年間2回以上の相互授業見学などを実施することで、若手教職員の育成や中堅教員の指導力向上に向けての意識の高まりがあった。引き続き、職場内でのOJTを推進、計画的な校内研修の実施により、教職員の資質向上を図っていく。
- (5) Teams や校内イントラ等を活用してペーパーレス化の推進を図った。一部の機能活用に限定さ

れており、引き続き効率的な活用について検討を進めていく。

- (6) 校内研修等の実施により統合型校務支援システム等のデジタル技術の活用が進んでいる。今後さらに業務の効率化を進め、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図っていく。また、今後さらに教職員の提示退庁を促し、在校等時間の縮減を図っていく。
- (7) 体罰や不適切な指導に関することについて服務上の課題が生じないよう、引き続き校内研修など機会を捉え、服務規律の徹底を図る。
- (8) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させることができた。
- (9) 自律経営推進予算の執行状況について適正に管理した。今後はさらに費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方について、全教職員に周知、定着させていく。
- (10) 一般需用費のセンター執行を適切に行った。引き続き適切な執行を推進していく。
- (11) 施設設備の安全管理について、修繕の早期発見、即時対応を推進できた。引き続き施設を安全に使用できるよう、計画的に対応していく。

IV 今年度の重点目標（数値目標）（①今年度目標 ②令和5年度結果 ③令和4年度結果）

1 学習・進学指導の充実

- (1) 授業満足度 (①85%以上 ②81% ③84%) 82%
- (2) 6教科8科目以上の共通テスト受験率 (①50%以上 ②48% ③47%) 48%
- (3) 国公立大学合格者 (①60名以上 ②56名 ③64名) 60名
- (4) 早慶上理合格者 (①60名以上 ②68名 ③39名) ※延べ数 83名
- (5) GMARCH合格者 (①250名以上 ②297名 ③223名) ※延べ数 307名
- (6) 授業以外の学習時間 (①1学年：2時間以上 2学年：3時間以上
②1学年：1時間30分 2学年：2時間 6分)
1年生1時間36分 2年生1時間30分 (第1回調査 6月)
1年生1時間30分 2年生1時間42分 (第2回調査 11月)
1学年1時間36分 2年生2時間18分 (第3回調査 2月)

2 部活動・特別活動の推進

- (1) 学校満足度 (①90%以上 ②90% ③88%) 93%
- (2) 行事満足度 (①90%以上 ②94% ③92%) 93%
- (3) 部活動加入率 (①95%以上 ②101% ③100%) 103%

3 グローバル人材育成教育の推進

- (1) グローバル人材育成教育（国際理解教育）満足度
(①85%以上 ②71% ③80%) 77%

4 学校広報活動の充実

- (1) 学校説明会参加者数 (①1800名以上 ②1327名 ③1832名) 1314名
- (2) 中学校・塾訪問数 (①250校以上 ②251校 ③133校) 294校
- (3) 入学選抜最終応募率 (①推薦2.50倍以上／一般1.50倍以上
②推薦2.04倍／一般1.35倍 ③推薦2.43倍／一般1.55倍)
推薦1.69倍／一般1.37倍

5 適切な予算執行と教育環境の整備

- (1) 一般需用費のセンター執行割合 (①50%以上 ②57.6% ③44.1%)
61.2%